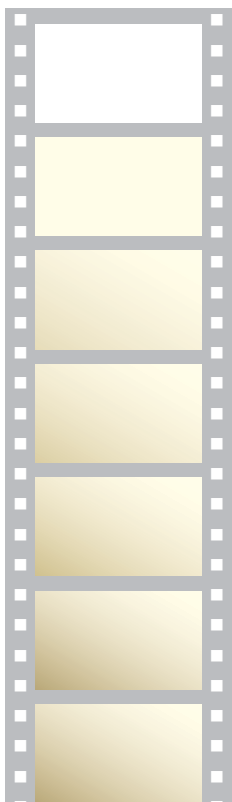


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第二十二回 「ケネディとコーラス」①

幸い、中学校時代の三年間は父の転勤もなく、のんびりした学生生活を送ることができました。しかし、中学三年になって待ち受けていたのは「高校受験」でした。

三つ年上の姉は、愛知県立中村高校に入学していました。姉の入学式で当時の校長が「この学校は伝統（電灯）はないが、蛍光灯はある」と受けをねらっただけやれを言ったという話を聞いて笑ってしまいました。そんなおもしろい話をする校長がいる学校なら、楽しい高校生活を過ごせるだろうと、ぼくは姉と同じ中村高校を受験することにしたのです。

父兄面談で担任の先生は「鈴木君の成績だと、ギリギリの線で合格、あるいは？」という分析をしていましたが、ぼくも「姉に出来てぼくに出来ないことはない」と一念発起して勉強に取り組み、合格したのです。

当時、愛知県の高校は、公立高校が男女共学、私立高校が男子校と女子校に分かれていました。

愛知県立中村高校のある名古屋市中村区は、昔、中村村と言い、豊臣秀吉の出身地です。

ぼくが入学した時、姉は短大へ進学していました。在学中、男子の友達も多く、また、バスケットボール部のマネージャーをしていた縁もあり、いろいろな話もありましたが、ぼくの部活は「バスケットボール部」を選びました。

毎日、飛んだり、跳ねたりで、身長は伸びましたが、成績は伸びず、練習をして帰宅すると身体はヘトヘト、食事後はすぐ眠くなり、勉強どころではなくなっていました。6ヶ月で中学時代のように「帰宅部」に変更したのです。

ところが、ぼくがバスケットボール部をやめたと聞いて「音楽部」（当時は合唱だけの部）の部長（男子）が勧誘に来たのです。部長の話によると、秋の発表会やコンクールで男声コーラスのメンバーが足りなくて、音楽の先生に相談したら、「鈴木君は高い音が出るから誘ってみて！」と言われたというのです。

内心、推せんされて悪い気はしませんでした。女子もたくさんいる合唱部ですし、「体育会系のバスケットボール部よりは合唱のほうが肉体的に楽かな？」とも考え

こうと思う。

部外者から見ると、「音楽部は女子が甲高い声を出して歌っているところだ」と誤解されやすく、男子にとって入りにくいクラブだと思われがちだが、そうではない。男声コーラスには男声のよさがある。低音の魅力をもつバリトン、素直な声質のテナーなど。ぼくが入部して思ったことは、男声の人数は少ないけれど、女声コーラスには劣らない迫力を持っている。

男女の仲もよく、お互いに協力的で、それが、先日のNHK合唱コンクールで発揮されたのではないか？特に音楽の混声合唱などは気持ちをひとつにしなると、すばらしいコーラスにはならないのだ。

NHK主催の合唱コンクールには14校が参加した。一位は何度も出場している向陽高校だった。わが高は創立十一年でコンクールという名のつく催しに学校として公式に初出場、そして成績は、第四位だからまだまだこれから希望は持てる。

ぼくが入部したきつかけは、もともと歌が好きだったので、機会があれば歌
つてみたいと思っていた。そこへ音楽部の勧誘があつたので、合唱したところ、
なかなかおもしろく、続けていく決心がついた。

クラスの男子で入部したい人があれば、ぼくに言つてほしい。

最後にひとこと。音楽部は運動部とは、根本的に違ふところがあるが、目的
は同じである。それは「協力」だ。何事においても協力が必要だ。

力一杯歌えば、自分が持っているモヤモヤは、一度にすつ飛んでしまう。そ
れが音楽部である。

〈続〉

伸

平成23年6月